全国ネットワーク会議報告

テーマ「ボランティアコーディネートについて」

講師：河合将生さん（office musubime）

日時：1 月 21 日（火）19：30〜21：00

Zoom による開催

参加団体：大阪、兵庫、神奈川、千葉、広島、北海道の権利擁護団体から 17 名

① 全国ネットワーク会議について

2020 年度に大阪精神医療人権センターは日本財団の助成事業を受託し、「精神科に入院中の方への権利擁護の普及のためのコンサルテーション」をテーマに事業を実施し、その中で「全国検討チーム」が生まれました。当チームが団体間の情報交換、困りごとの共有や解決の場として機能し始めました。引き続き 2021 年度、2022 年度と日本財団の助成事業を継続し、権利擁護団体の立ち上げ支援を行い、全国に複数の権利擁護団体が成立しました。それに伴い、「全国検討チーム」は「全国ネットワーク会議」に名称を変更し、各地の権利擁護団体にとっての貴重な交流の場として今に至ります。

② 1 月の「ボランティアコーディネートについて」の開催趣旨

全国の権利擁護団体は多くのボランティアの力をいただいて運営しています。できれば、ボランティアの方々が楽しく、やりがいを感じ、活動を継続していただきたいところです。そのためには団体運営担当者がボランティアの募集、役割分担や日程調整、実施後のフォロー、ボランティアの定着などに日々腐心することとなり、ボランティアコーディネートは運営上の課題になる場合があります。今回は、NPO 組織基盤強化コンサルタントの河合将生さんのお話を伺いながら、ボランティアコーディネートについて深める機会を持ちました。

③ と④今回の内容と感想

権利擁護団体に関わってくださるボランティアの期待やニーズはもともとかなり高い可能性があります。とは言え、今回の講演で示していただいた「3 つの C」である共通目標(Common Goal)、協働意欲(Collaboration)、コミュニケーション(Communication)を、団体として担保することはなかなか難しいことに気づかせていただきました。特に、団体の規模が大きくなるにつれて、組織的になり、個々のボランティアの意見が反映しにくくなり、自分は役割を果たせていないと感じる場面がでてきます。また、組織を円滑に動かすためのルールを作ったことが返ってやりにくさを生み、ボランティアが離れるきっかけになることがあり得ます。河合さんの講演の中には「組織文化の醸成」ということばがありました。がんじがらめの運営方針やボランティアへの決めごとよりも、うちの団体はこんな感じだよねという緩さが良い具合に融合することで、ボランティアの定着や団体の継続に至るのかもしれません。配信資料には 1 枚の葉が、多くの葉となり、花が咲き、実がなり、大きな樹に育つ絵が示されていましたが、ボランティアの力を得て、個々の団体が育ち、その先には、精神医療の権利擁護団体が目指す精神科病院の風通しをよくする共通目標の実現へと向かって行きたいと思えました。

どさんこコロ：松本真由美